

令和 8 年度 県立伊奈高等学校自己評価表

目指す学校像	豊かな人間性を育み、自主自立の精神を養うとともに、「確かな知力・たくましい体力と精神力を備え、グローバルな視点で社会に貢献し、持続可能な社会の創り手となる人材」の育成を目指す		
三つの方針	具体的目標		
「三つの方針」 (スクール・ポリシー)	「育成を目指す資質・能力に関する方針」 (グラデュエーション・ポリシー)	INA PRIDE (“Be Your Best Self”～様々な挑戦を通じて、自己の経験と視野を広げ、他者との比較ではなく、過去の自分と比較しながら、自己のより高みを目指す～) というモットーを掲げ、次のような人材の育成を図る。 A 学校における様々な活動に主体的に取り組み、自らの学校生活を充実させ、その経験を振り返り内省しながら自己成長につなげることができる B 理想とする将来の自己を常に設定しながら、自己実現に向けた取り組みを粘り強く行うことができる C 多様性を尊重し、同時に自己の言動を客観視しながら、課題に対して他者と協働して解決を図ることができる D 多文化共生社会における一市民としての意識を醸成し、グローバルな視点で未来を創造し、社会に寄与することができる	
	「教育課程の編成及び実施に関する方針」 (カリキュラム・ポリシー)	地域や家庭と連携しながら、必要となる環境や機会を提供し、生徒が自発的に、自己成長を目指していくように導く。そのために必要となる 10 の資質・能力 (①傾聴力、②持続力、③探究力、④論理的思考力、⑤想像力、⑥創造力、⑦自己肯定力、⑧多様性容認力、⑨行動力、⑩発信力) を生徒が身に付けられるような、授業や探究活動の計画を立て、実施後にその成果を検証する。	
	「入学者の受入れに関する方針」 (アドミッション・ポリシー)	① 本校の学修に必要な基礎学力を有している生徒 ② 自己実現に向けて向上心が強く、様々な知識・技能を吸収しようとする意欲と活力のある生徒 ③ 基本的な生活習慣を確立し、学校や社会の規範や礼節を守って日常生活を送ることができる生徒	
昨年度の成果と課題 令和 7 年度の成果 ・授業改善の進展と ICT 活用 アプリ「Padlet」を活用した教員相互の授業参観が定着し、教科の枠を超えて学年単位においても意見交換ができるようになった。その	重点項目	重点目標	達成状況
	自立した学習者を育む授業改善	(1) 「生徒による授業評価」における「授業満足度」の平均3.5以上 (K P I) (2) 授業において、I C Tを活用した「個別最適な学び」と「協働的な学び」を効果的に組み合わせ、学習の場における生徒の自立性、内発性を高める工夫をおこなうことにより、高い学習意欲を持って学びに向かう「自立した学習者」の育成をはかる。	

別紙様式 2 (高)

<p>成果が、生徒による授業アンケートでの評価向上として表れている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域と連携した探究活動充実によるキャリア形成 身近な課題について情報を収集する過程において、地域とかかわり意見を交わす場面を設定することができた。これらの経験をとおして自己を見つめる機会をもつことができたとともに、社会の一員としての自覚が芽生え、将来の生き方や進路についてより具体的に展望を描くきっかけとなった。 	<p>進路意識の涵養と学力向上</p>	<p>(3)地域社会や異校種との連携によるキャリア教育を充実させ、早期の進路意識確立に努める。 (4)シラバスの有効活用により授業内容の充実と計画的指導を実践し、生徒の自学自習の習慣付けを促す。 (5)フィールドワークを含む体系的な探究学習を充実させ、課題発見能力やその解決に向けた論理力を育む。 (6)観点別学習評価に基づき、授業力向上に努める。特に目標の提示と振り返りを1時間の授業内で行う。</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・組織的な生徒支援体制の構築 教員の日頃の声掛けにより生徒との信頼関係が築かれ、問題の早期発見・早期対応につながっている。また、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーなどの専門家、関係機関との連携が適切になされた。 	<p>安心・安全な学校の実現</p>	<p>(7)教員研修を積極的に推奨し、発達障害等の知識を身につけたり、組織的で適切な対応ができるようにする。 (8)面談やスクールカウンセラーを有効に活用し、相談体制を強化して予防に努めるとともに、いじめなどの諸問題の早期発見や適切な初期対応、チーム対応に努める。 (9)各種指導を通して生徒の安全の見取りの実施及び基本的な生活習慣の涵養に努める。</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の主体的な参画を促す特別活動 生徒会や学校行事などの活動において、多様な生徒の意見を取り入れながら企画実施することにより、意見を調整し共通の目標に向けて合意を形成するプロセスの重要性について学ばせることができた。 <p>令和8年度(次年度以降)の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭学習の習慣化と指導計画の充実 ・課題の当事者意識を醸成する指導の展開 ・進路意識の醸成とミスマッチ防止 ・特別支援教育の充実に向けた関係機関との連携強化 ・業務軽減に向けた具体的な方策の確立 	<p>人間関係力の向上</p>	<p>(10)学校行事や部活動・委員会活動等を活性化し、生徒の能力を生かした活力ある学校づくりを推進する。 (11)特別活動や部活動を通して自主的精神を養い、行動力を培うとともに、より良い人間関係の形成を図る。 (12)社会貢献活動やインターンシップ等の体験活動の充実を図り、社会的視野を携えた豊かな心を育成する。 (13)キャリアパスポートを活用することで、生徒自身が自らの学びを見通したり、振り返ることで主体的に学びに向かう力を育む。 (14)18歳成人をふまえ、様々な機会を捉えて成年教育の充実を図り、公民的資質を育む。</p>	
	<p>働き方改革</p>	<p>(15)学校の重点目標や経営方針を共有化し、その目標達成のために業務の適正化を図る。 (16)本年度は月平均25時間以内、月平均45時間超過者割15.0%、月平均80時間超過者割合0.0%を目指し、業務の分担をすすめる。</p>	

別紙様式2 (高)

評価項目		具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への 主な課題	
教 科	国 語	基礎学力の向上を図る。	漢字テスト、古文単語テストを計画的に実施し、学力向上と進路意識の涵養を図る。(3)			
		自学自習の習慣付けを促す。	授業の予習や週末課題等を定期的に課すことで、生徒の自学自習を習慣づける。(4)			
		国語学習に対する興味関心を高める授業を目指し、改善に努める。	校内外の研修において観点別学習評価に基づいた授業力向上のスキルを身に付け、生徒の学習意欲を喚起するような分かりやすい授業の構築に努める。(1)(6) I C T機器の使用や協働学習の実施など授業形態を工夫し、主体的な学習を促す。(2)(5) 授業内容に関する疑問、質問を随時受け付け、個に応じたきめ細やかな学習支援を行う。(4)(5)			
	地 理 歴 史	基礎学力の定着を図る。	1学年では中学校の内容を含めた基礎的な事項を復習する。(4)			
			シラバスに基づき、小テストを活用して学習到達度を把握する。不十分な生徒に対しては補習等を実施する。(4)(7)			
		家庭学習の定着に努める。	授業内容に関する疑問、質問は随時受け付け、生徒の自主的な学習意欲に応える。(4) 授業内容に関連した問題プリント等を活用し、授業の復習を中心に学習を習慣づける。(5)			
	地歴科に対する興味関心を高める授業への改善に努める。	新聞やテレビのニュース等を紹介し、授業内容と実生活との関連を意識させると同時に、思考力、判断力、表現力を育成する授業やテストを工夫する。そのために公開授業の実施、授業内容の向上を目的とした教科会の開催等で研究協議する。(1)(2)(3)(5)(6)				
	公 民	基礎学力の定着を図る。	1学年では中学校の内容を含めた基礎的な事項を復習する。(4)(5)			
			シラバスに基づき、小テストを活用して学習到達度を把握する。不十分な生徒に対しては補習等を実施する。(4)(5)(7)			
		家庭学習の定着に努める。	授業内容に関する疑問、質問は随時受け付け、生徒の自主的な学習意欲に応える。(4)(5) 授業内容に関連した問題プリント等を活用し、授業の復習を中心に学習を習慣づける。(5)			
	成年教育に留意しながら、公民科に対する興味関心を高める授業への改善に努める。	成年教育に留意しながら、新聞やテレビのニュース等を紹介し、授業内容と実生活との関連を意識させると同時に、思考力、判断力、表現力を育成する授業やテストを工夫する。そのために公開授業の実施、授業内容の向上を目的とした教科会の開催等で研究協議する。(1)(2)(5)(6)(14)				
	数 学	生徒の多様な進路希望に対応できるように、基礎学力の向上、確かな学力の育成を図る。	小テストを利用して学習の理解度を把握する。			
学習内容定着のため、放課後質問の時間や課外授業を設ける。						
生徒の学力をより伸ばすこ		週末課題等の課題を定期的に点検し、家庭学習の習慣をつける。				

別紙様式 2 (高)

		とができるように、授業の改善に努める。	授業公開、研究協議、および生徒へのアンケートを行い、授業改善を図る。		
			各種研修会に積極的に参加する。		
理 科	基礎事項の反復による定着と向上を図る。		授業の導入段階において短時間の確認活動を継続的に実施し、既習内容の想起および定着を図る。(4)		
			単元ごとに到達すべき基礎事項を明確化し、反復的な演習および再確認の機会を設けることで、確実な習得を促す。(4)		
	自然科学現象を根拠とともに説明できる力の育成		実験や観察の場面において、結果の理由を言語化させる活動を位置付け、因果関係に基づく説明力の育成を図る。(5)		
			記述活動を継続的に取り入れ、「根拠を明確にした説明」を行う指導を積み重ねることで、表現力の向上を目指す。(4)		
家庭学習の習慣化		I C Tを利用して授業内容と関連付けた適切な分量の課題を計画的に提示し、継続的に取り組む学習習慣の定着を図る。(6)			
			課題の確認およびフィードバックを授業内で行い、家庭学習と授業との連動性を高めることで、学習の有効性を実感させる。(1)		
保健 体育	明るく豊かで活力ある生活を営む態度を育てる。		生活習慣を確立させ、心と体の関連について理解させるよう努める。(9)		
			ヘルスプロモーションの考え方を理解させ、適切な生活行動選択ができるように努める。(4)		
	健康の保持増進と体力の向上。		健康・安全や運動について身近な生活における実践的な理解を図る。(3)(4)(9)		
			生徒個々の心身の発達の特性を理解できるように努め、運動の実践を図る。(1)(2)(4)(5)(7)		
	生涯にわたって運動に親しむ資質や能力の向上。		授業時間内での運動量の確保を図る。(1)(2)(5)(6)		
			安全管理、施設用具の点検を行う。(9)		
		個人の集団の運動課題を認識させ目標を設定し、課題解決の実践を促す。(1)(2)(3)(4)(5)			
		運動の関心や自ら運動する意欲を育て、楽しさ喜びを感じさせる工夫した授業の展開に努める。(1)(2)(3)(4)(5)			
		運動部活動への加入を促し、運動部顧問との連携のもと、加入者への支援を充実させる。(3)(10)(11)			
芸術	音楽の幅広い活動を通して、基礎的・基本的な内容の確実な定着を図り、豊かな感性と創造的な能力を育む。 美術に関する専門的な学習を通し、感性や創造的な表現と鑑賞の能力を高める。		基礎的・基本的な練習課題の充実、十分な練習時間の確保をとおして、知識・技術の定着を図る。(4)(6)		
			生徒間の学び合い・話し合い活動の設定、I C Tの適切な活用を通して、自己課題を発見し、主体的に学習に向かう姿勢を育成する。(4)(6)		
			生徒の活動状況や振り返りから、生徒の理解度を把握し、個に応じた適切な助言・指導を目指す。(4)(6)		
			生徒による授業評価をもとに、題材の修正・再立案を行い、生徒の実態やニーズに即した授業展開を図る。(1)(4)(6)		
			様々な作品の鑑賞を通して、芸術の良さや美しさを感じとる能力を育てる。(4)(6)		

別紙様式 2 (高)

		創作することに深い興味を持ち、主体的に取り組む姿勢を育てる。(1)(4)(6)		
		基本的な表現及び専門的な表現方法を学び、表現の幅を広げる。(4)(6)		
		試行錯誤しながら、自己実現する能力を養う。(4)(6)		
		基礎的・基本的な練習課題の充実、十分な練習時間の確保をとおして、知識・技術の定着を図る。(4)(6)		
外国語	基礎学力の定着を図る。	平日の授業や課外授業の内容を向上させるため授業公開を実施し、わかる授業を展開するよう努力する。インプット・アウトプットを意識した授業展開を図る。(1)(2)(6)(15)		
		サポートティーチャーの有効活用を検討し、教科で共通理解を図る。(3)		
		CANDO リストを参考にシラバスを作成・活用して生徒に積極的な予習を促し、家庭学習を定着させる。(4)		
		言語活動を充実させ、コミュニケーション能力の育成を図る。(2)(3)		
	家庭学習時間の確保に努めさせる。	英単語試験を行い、基本的な語彙の習得を図る。長文読解力養成として、音読練習の指示を出す。(2)		
		定期的に課題を出して英語のインプット量を増やす。(2)		
英検等の検定試験の受験に挑戦させる。	実用英語検定試験を積極的に受験するような指導体制を確立し、多くの受験者が出るように努める。(2)(3)			
家庭	主体的・対話的な学びを促す授業内容や授業展開にする。	実習やアクティブラーニングの実践を通し、主体的に生活課題の解決を図る能力を育成する。(2)(3)(5)		
		実践的・体験的な学習をより多く取り入れ、協働作業を通して互いに学び合う。(2)(3)(5)		
	現代の家庭生活で生き抜く力が身につくように実習及び体験学習の充実を図る。	調理実習・被服実習などの実習及び体験学習を積極的に取り入れ、生活者としての技術や知識の習得を図ることで、生活の質(QOL)を高める視点を持てるように育てる。(2)(3)(4)(9)(14)		
		短時間でできる調理実習の献立を工夫し、家庭生活で役立てるようにする。(9)		
豊かな心の育成を図る。	家族・社会の変化・課題に関心を持たせ、共に助け合いながら生きることの大切さを考えさせ柔軟に対応できる力と、自他の生命を尊重する態度を育てる。(2)(3)(5)(12)(14)			
情報	情報社会に不可欠な情報リテラシーを身に付けさせる。	実習を行いながら、情報社会の仕組みや特徴を理解させるとともに、インターネットの利用に必要なモラルや力を身に付けさせる。		
	情報技術を適切に活用できる知識を身に付けさせる。	身の回りで起こりうるインターネット上のトラブルの原因と対策について考えさせる。情報を発信するときに注意すべき点について理解させる。		
	問題解決の手順や方法を実生活に活かせるようにする。	問題解決の方法を理解し、修学旅行の事前事後学習や進路学習で役立てさせる。		

別紙様式2 (高)

総合的な探究の時間	社会の一構成員である自覚をもって自己を見つめる姿勢を育てる。	学校行事や地域社会との交流を通して、他者との関わり合いの中から自己を見つめる機会をもつ。 (2)(3)(5)(10)(11)(12)(14)			
	国際理解、環境問題、福祉問題に興味を持ち、自ら考える力の育成を図る。	身近な問題に興味をもち、情報収集をすることで、さらに広い地域、国際社会まで視野が広がるような、学びの場を作る。 (2)(3)(5)(10)(11)(12)(14)			
	自分の生き方について深く考えさせる。	進路学習を軸に、自らの考えを発表し、他者の考えから学ぶ経験をすることで、自分の一生について深く考える機会をもつ。 (2)(3)(10)(11)(12)(14)			
	学問分野や職業について研究し、進路実現につなげる。	自分に必要であり正確な情報を収集する力を養う場面を設定し、進路実現に役立てる。 (2)(3)(5)(10)(11)(12)(14)			

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題
教務	授業時間の確保と授業改善に繋がる体制作りに努める。	職員の出張・年休等の場合の振替実施率100%を目指す。		
		授業は始業ベルと同時に開始するよう職員間で「ベル着」の共通理解を持つ。(1)(4)		
		学校行事等で授業がつぶれないよう日程調整により授業時間の確保をする。(2)(4)		
		職員が授業公開及び授業改善に円滑に取り組めるよう、授業改善チームのサポートを積極的に行う。(1)(4)		
		シラバスの有効活用について、広く意見を求め、発展させる。(1)(4)		
	地域社会との連携に努め、本校のアピールポイントを積極的に地域に発信する。	中学校訪問・学校新聞(伊奈高だより)配付による情報提供を充実させる。		
		学校ウェブページにおける各項目の更新と古い情報の削除を促進させる体制を整え、本校の取り組みを逐次発信できるようにする。		
		中学校1日体験入学・学校説明会の実施と、それらを通じて本校の魅力を十分伝えられるよう、さらなる内容の充実を図る。また、部活動体験については、部活動の取組を十分伝えられるよう、一定の期間を設け、その期間内に実施する。(3)		
	円滑な学校運営に努める。	学校行事や日々の活動の日程調整等に関して、各校務分掌、学年、教科と連携を密にし、円滑な学校運営に努める。(6)(7)		

別紙様式2 (高)

		定期考査、時間割、奨学金、教科書等、日々の教務に関する業務が遺漏なきよう万全を期す。(1)		
	より良い学習評価の方法を検討する。	学習評価のあり方を再度検討し、生徒の学習活動の実態により即した評価方法を確立する。(1)		
	校内情報機器環境の整備・校務支援システムの活用	適正な情報機器環境の整備・パソコンの更新。新教育情報ネットワークシステムの運用・活用。生徒の出欠管理・授業振替等に係る校務支援システムの活用方法の検討と運用の定着化。(2)(5)		
特別活動	生徒主体の行事運営の確立と規範意識の向上	実行委員会や生徒会による企画・運営のさらなる充実。(10)(11)		
		生徒支援部との連携強化による、行事における校則（服装等）の遵守と準備期間中のマナー徹底(9)		
		生徒が主体となる運営体制の確立による担当教員の業務適正化(15)(16)		
	部活動及び委員会活動の活性化と縦の繋がりの強化	部活動への積極的参加の促進による技術向上及び豊かな人間関係の育成(10)(11)		
		各委員会からクラス全体への情報共有の徹底による生徒一人ひとりの責任感と組織としての質の向上(10)(11)		
		学校行事を通じた学年間交流の機会の設定による学校全体の活力及びより良い人間関係の形成(11)		
	地域連携と社会的体験を通じた社会的視野の育成	地域社会との交流・奉仕活動による社会的視野と豊かな人間性を育成(12)		
キャリア・パスポートの活用	キャリア・パスポートを活用し、自らの学びの進捗やキャリア形成を振り返り、自己実現につなげる。(3)(5)(10)(11)(12)(13)			
生徒支援	全職員による指導体制の構築に努める。心の教育を重視し、人の命の大切さや好ましい人間関係の醸成に努める。	各学年主任及び生徒支援部員を通して、指導の細則について職員の共通理解が得られるように留意する。担任等による面談等を通じた情報収集に努め、全職員でいじめの未然防止・早期対応に取り組む。(8)		
		年8回、学年ごとに服装チェックを実施するとともに、全職員で正しい制服の着こなしや清潔な頭髪に心がけようとする意識を高める。(9)		
		教務部とともに、始業チャイム着席の励行を促進し、学習に取り組む意欲の喚起に努める。(9)		
		交通安全についての指導を行い、安全への意識を高める。(9)(10) ・通学路での登校指導 ・交通事故の新聞記事を素材とした指導 ・警察官による交通安全講話の実施 ・バイク実技講習会の実施		

別紙様式 2 (高)

		健康と安全に関する意識を高める。(9)(10) ・薬物乱用防止教室、スマホ安全教室、学校生活調査の実施等		
	家庭及び地域社会との連携を図り、円滑な指導ができる協力体制の構築に努める。	年2回の保護者面談、合格者説明会、PTA総会などの機会に、本校での指導内容や近隣で発生した事象について広報し、家庭での指導の充実と学校への協力体制作りに努める。(7)(8)		
		所轄署の生活安全課、交通課や交番との連携を図り、交通事故や変質者被害などに即対応できるように努める。(8)(9)		
		つくばみらい市役所総務課(交通安全担当)、地域の交通安全協会等と連携を図り、交通安全キャンペーンやバイク実技講習会などへの協力をしてもらえるような体制作りに努める。(3)(9)		
進路指導	多様な進路希望を持つ生徒の進路実現に向けて、キャリア教育を推進する。	各学年と連携し、職業研究ガイダンスや大学模擬授業などの進路行事を、3年間を見通した系統的・計画的なものとする。(3)(12)(13)(15)		
		低学年からの段階的な進路行事において事前・事後指導の充実を図り、高い目標設定の意義を伝え、課題解決力・キャリアプランニング力の育成を目指す。(3)(12)(13)		
		課外や模擬試験・検定試験、進路別学習会など様々な学習活動での効果的な指導を計画・実施する。(3)(5)		
		サポートティーチャー制度を有効活用し、個に応じた学習支援を行うことで学力向上を図る。(3)		
	進路情報の収集・活用に努める。	生徒・保護者への講演会の実施、情報誌の提供や進路便り発行などをとおして、具体的でタイムリーな情報提供に努める。多様な新入試制度の情報を整理・共有し対応を検討する。(3)		
保健厚生	心身の健康の保持増進を推進する。	心身上の課題を抱えている生徒はもちろん、いじめにつながりそうな生徒間の言動にも目を配りながら、担任・学年との連絡を密にし早期発見、早期対応ができるよう日頃の観察や相談に努める。また特別支援教育・教育相談について教員対象研修会の機会を設け実践力を高める。(5)(6)(7)(8)		
		教育相談の機会設定及び保健室・相談室へ気軽に来室できる環境整備に尽力する。(6)(7)(8)		
		年間を通じて生徒の健康管理や予防について注意喚起し、安全衛生上の問題箇所を点検・把握し解消するよう努める。(7)(8)(9)(10)		
	学習環境を整える。	ゴミの分別化・減量化・再利用について考える機会を設ける。(7)(10)		
		教室内の環境整備(温度・湿度・CO ₂)に努め、冷暖房の適正使用を指導する。(7)(10)		
	防火・防災に努める。	日頃より火気の点検を行う。実践的な防災訓練を行うなど非常時対応を身に付けさせる。(7)(10)		
図書	図書館の環境を整え、教育的かつ文化的な環境の向上を図る。	学校の規模に応じた蔵書構成や、図書館内の美化、図書の管理・整備を心がける。(2)(5)		
		季節に応じて館内の装飾を工夫し、親しみやすく閲覧しやすい図書館をめざす。(5)(10)		
	書物に親しむ習慣を身につける。	図書購入希望を行い、生徒の希望図書購入に努める。(2)		
		図書館報や新刊案内を発行し、読書習慣の向上を図る。(2)(5)		

別紙様式2 (高)

		研修会や文化祭、市立図書館でのインターンシップに参加し、委員会の活動を活性化する。(3)(10)		
渉 外	P T A 活動の推進に努める。	創立40周年記念行事を多くの人の心に残るような式典にする。(3)(9)		
		委員会や研修を通して会員相互の親睦を深める。(3)(10)		
	広報活動の活発化に努める。	P T A の活動を広く知って頂くために、年2回発行の広報誌以外の広報活動を検討、実践する。(9)		
	研修の実施と内容の充実を図る。	内容、告知方法など保護者とともに考え、多くの方に参加して頂けるような研修を行う。(3)(12)		
第 1 学 年	基本的生活習慣の確立と規範意識の定着を促す。	自己管理の啓発に努め、基本的生活習慣の確立を促す。(9)		
		容儀指導や集団生活を通して規範意識を確立させ、社会で通用する常識や良識のある人間性を育成する。(9)		
	学習習慣の確立及び学力の定着を図る。	各自が明確な目標をもって授業に臨み、毎時間の振り返りを家庭学習の習慣につなげられるような授業を計画・実施し、課題を提示するよう努める。(4)(6)		
		個別面談、各種調査等で生徒の実態の把握に努め、課外やサポートティーチャー制度を活用し、個に応じた学習支援を行う。(3)		
	多様性を尊重する豊かな人間性を育成し、安心・安全な集団を育む。	探究や学校行事、部活動を通して、自主的精神を養うとともに、他者を理解し、多様性を尊重できる豊かな心の育成に努める。(10)(11)		
		生徒の抱える課題を担任面談や中学校訪問等を通じて早期に把握するとともに、学年のみならず、スクールカウンセラーの活用、専門機関との連携等も視野に入れ、初期段階から適切に対応する。必要に応じ、個別の教育支援計画を作成し、個に応じた支援を行う。(7)(8)		
社会的見地の拡充と、自己理解を図り、進路意識の確立を促す。	社会貢献活動やインターンシップ等の体験活動への積極的な参加を促し、地域社会や社会情勢への興味・関心を高揚させるとともに、自己肯定感を味わう機会を設ける。(12)			
	社会で生きる現実を意識させ、自己の興味・関心や適性について深く考える機会をつくり、進路意識の確立を図る。(3)			
第 2 学 年	進路意識の醸成と学力の向上を目指す。	大学模擬授業や進路講演会を実施し、将来の進路実現に向けて意識を高めさせる。(3)		
		学習記録アプリやスタディ・サブリの活用及び学習量調査(毎週)を行い、自ら計画的に学習する習慣を身につけ、安定的な家庭学習時間を確保し、学力向上に努める。(4)		
		課外授業やサポートティーチャー、I C T の有効活用を図り、個に応じた学力支援を行う。進路希望の具現化を意識した学習を促す。(4)(5)		
	生徒との面談を頻繁に実施し、進路の自己実現に向け努力させる。(8)			
	基本的な生活習慣の確立と組織的に	HR活動、学年集会等を通じて基本的な生活習慣や社会規範意識を育成する。(9)		

別紙様式 2 (高)

	対応する集団作り	様々な事情で困難を抱える生徒に対しては、学級担任のみならずスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー等と連携しチームで対応する。(7)(8)		
	協働する心を育成し社会に貢献できる力を身につけさせる。	部活動や修学旅行などの学校活動を通して行動力を養い、他者と協働できる心を育てる。(10)(11)		
		総合的な探究の時間のグループ活動を通して、協働する心を育成し、社会の出来事への興味・関心を高め、社会の一員としての自覚を持たせるとともに、その活動の記録を残し、自己の成長の過程を振り返ることで自己肯定感を高める。(12)(13)		
		学習ボランティア、インターンシップ、その他幅広いボランティア活動など、社会貢献体験への参加を促す。(12)		
第3学年	早期の進路目標の設定と進路実現に向けた学習習慣の確立及び学力向上を図る。	進路分野別に進路学習を実施し、探究活動の成果をもとに、進路情報の収集や志望理由書作成の指導を通じて、生徒の具体的な進路目標を設定させる。(3)(5)		
		生徒個々の自学自習を定着させるため、定期的に面談等を実施しながら学習管理を行い、進路実現に向けた支援を行う。(1)(2)		
		教科毎に授業改善に取り組み、指導内容を明確化し、シラバス等を通して生徒に一年間の学習方針の周知を図る。(2)(4)		
		観点別評価を充実させ、「授業公開」を実施し授業を検証することにより、充実した内容の授業につなげ、生徒の学習意欲の向上を図る。(1)(6)		
	学校生活に主体的に取り組み、様々な活動などを通してより良い人間関係の形成を図ることで、豊かな心の育成を目指す。	進路分野毎に模擬試験を実施し、問題の分析や結果を分析することで、生徒が身につけるべき力を把握し、生徒の学力向上を図る。(2)(6)		
		社会貢献活動等の体験活動の充実を図り、社会で生きる上で必要となる人間関係力を向上させる。(5)(12)(14)		
	組織的な相談体制を充実させ、基本的な生活習慣と規範意識を身につけ、社会で生き抜くための力を養う。	学校行事への参加を積極的に促し、高校生活を有意義に送れるよう支援する。また学校行事への参加を通して自主性と社会性を育てる。(10)(11)		
諸事情により困難さを抱える生徒に対し、学級担任や学年職員だけでなく、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー等と連携しチームで対応する。(7)(8)				
学年集会・HR活動・各種ガイダンス等を通じて、基本的な生活習慣や社会的規範意識を育成し社会で通用する常識・良識ある人間性を養う。(9)(14)				